

平成30年11月21日

まちづくり委員会資料

請願の審査

請願第52号 小田急線（向ヶ丘遊園駅～新百合ヶ丘駅間）の地下2層化・
複々線化を求める請願

資料1 小田急小田原線の複々線化（向ヶ丘遊園～新百合ヶ丘）計画について

参考資料 小田急小田原線（登戸～新百合ヶ丘）位置図

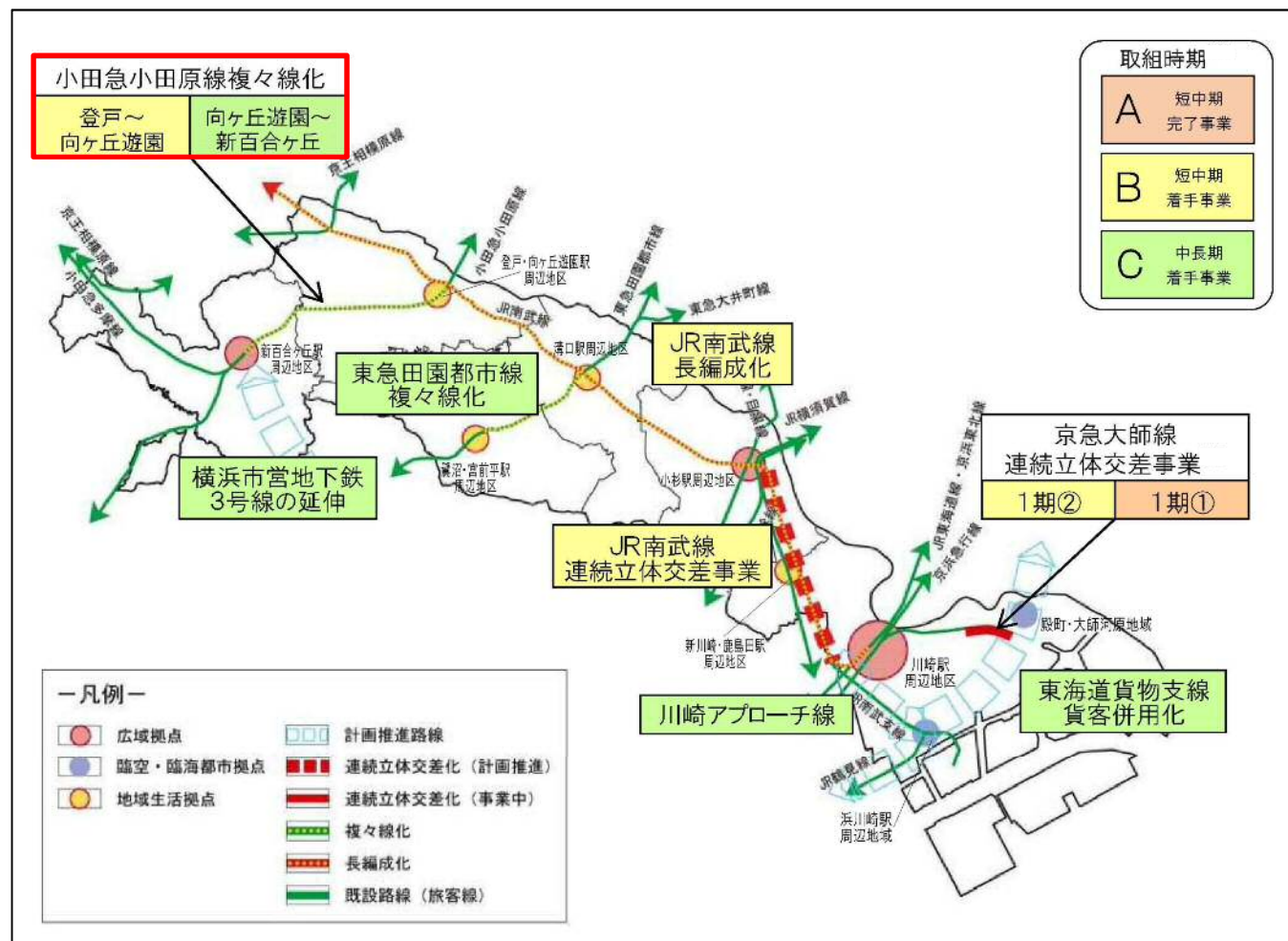
まちづくり局

1 小田急小田原線複々線化の位置づけ

(1) 川崎市総合都市交通計画（平成30年3月）

- ・鉄道、道路ネットワークから身近な地域交通などに渡る様々な交通課題に対応した、総合的かつ持続可能な交通政策を推進するため、「誰もが利用しやすいこと」、「安全・安心かつ円滑であること」、「持続可能であること」を交通政策の理念に掲げ、平成25年3月に当初計画を策定。
- ・当初計画策定から5年が経過したことから、これまで取り組んできた施策・事業の進捗や成果を踏まえるとともに、上位計画等との整合を図り、交通政策を取り巻く様々な状況の変化に対応するため、平成30年3月に中間見直しを行った。
- ・鉄道交通施策については、その方向性を具現化する将来目指すべき鉄道ネットワークとして、小田急小田原線複々線化も位置付けている。

<鉄道ネットワーク形成事業の取組時期>



<小田急小田原線複々線化の取組時期>

- ・「登戸～向ヶ丘遊園」
B（事業）：計画策定から10年内（2022年度まで）に事業着手（事業化）をめざす事業
- ・「向ヶ丘遊園～新百合ヶ丘」
C（事業）：計画策定から20年内（2032年度まで）に事業着手（事業化）をめざす事業

(2) 交通政策審議会

- ・交通政策審議会とは、国土交通大臣の諮問に応じて、交通政策に関する重要事項を調査審議すること等を目的として、学識経験者等により構成された機関。
- ・平成12年1月、概ね15年後（2015年頃）を念頭に、「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画（運輸政策審議会答申第18号）」が答申され、「和泉多摩川～新百合ヶ丘」間の複々線化が位置付けられた。
- ・平成28年4月、概ね15年後（2030年頃）を念頭に、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方（交通政策審議会答申第198号）」が答申され、「登戸～新百合ヶ丘間」が、地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクトとして、複々線化が位置付けられた。

小田急小田原線複々線化（登戸～新百合ヶ丘）

- 【意義】小田急小田原線の混雑緩和や東京圏南部地域と都心とのアクセス利便性の向上。
- 【課題】関係地方公共団体・鉄道事業者等において、事業スキームを含めた事業計画について十分な検討が行われることを期待。

2 小田急電鉄（株）との取組

- ・包括連携協定（平成28年11月15日締結）
小田急電鉄が持つノウハウや、市と小田急電鉄の両者が持つ資源や強みなどを生かし、概ね10年後を見据えて、地域特性や地域資源を活かした暮らしやすい沿線の実現に向けた取り組みを連携・協力して推進するため、包括連携協定を締結。
【連携・協力事項】（1）駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関すること
（2）暮らしやすいまちづくりに関すること
（3）地域資源を活かした豊かなまちづくりに関すること
（4）鉄道沿線の魅力向上・活性化に関すること

3 小田急小田原線複々線化の進捗状況

- ・東京都内の複々線化として、4つの事業区間の整備が完了。
【参考】各事業区間の完了年
「代々木上原～東北沢」間（昭和53年3月）（構造形式：高架式）
「喜多見～和泉多摩川」間（平成9年6月）（構造形式：高架式）
「世田谷代田～喜多見」間（平成16年11月）（構造形式：高架式（一部掘割））
「東北沢～世田谷代田」間（平成30年3月）（構造形式：地下式）
- ・これに伴い、登戸駅構内の「3線→4線」化（平成30年3月）
- ・「代々木上原～登戸」間の複々線化による運行開始（平成30年3月3日）

<本市の取組状況>

- 神奈川県鉄道輸送力増強促進会議において、小田急電鉄に対し複々線化の早期実現を要望。
- 小田急電鉄と複々線化等に向けた意見交換の実施。

